

安倍総理 成長戦略第3弾スピーチ（抜粋）

平成 25 年 6 月 5 日（内外情勢調査会）

（国家戦略特区）

新しく「国家戦略特区」を創設いたします。

小泉内閣が始めた構造改革特区は、地方自治体から提案を受けて、一つひとつ、古い規制に風穴を開けてきました。たくさんの特例が、その後に全国展開され、まさに、規制改革の「切り込み隊長」となってきました。

今般、私が提案する「国家戦略特区」は、構造改革特区の考え方を、さらに「面的なもの」へと進化させていくものです。

ロンドンやニューヨークといった都市に匹敵する、国際的なビジネス環境をつくる。世界中から、技術、人材、資金を集める都市をつくりたい。そう考えています。

しかし、この目的を達するためには、一つひとつ規制のモグラたたきをやっている、キリがありません。

国際的なまちづくりには、外国人でも安心して病院に通える環境が必要です。外国人がコミュニケーション容易な医師から診療が受けられるようにし、トップクラスの外国人医師も日本で医療ができるよう制度を見直します。

子ども達に通えるインターナショナルスクールも充実しなければなりません。国内での設置を困難にしているルールは、大胆に見直しを進めていきます。

職住近接の実現もまた、大都市に住む人には課題です。マンハッタンでは、昼間と夜間の人口に、ほとんど差はありません。街の中心部での居住を促進するため、容積率規制も変えます。

とにかく「国際的なビジネス環境」を整える。このように目的を明確にした上で、国は、地方自治体の提案を審査する立場ではなく、地方と協力する。国自身が目的を明確にし、主体的に、できることは何でもやっていく。

これが、私の考える「国家戦略特区」です。

すでにワーキング・グループをつくって、課題の徹底的な洗い出しを始めています。私の国家戦略特区に、「聖域」はありません。